

長坂道子 美しく、サステナブルに Sustainably Elegant

人権・環境意識の高いスイスに暮らす長坂さんは、リシェス・オブリージュの名づけ親でもあります。自身が選び抜いた上質なフェアトレード作品を通して、サステナブルな生き方とスピリットについて考えます。



ながさか・みちこ ●作家・ジャーナリスト。京都大学文学部哲学科卒業。25ans編集部にて約3年在籍後、1988年渡仏。欧米数都市に住み、執筆及び医療福祉のボランティア活動を続ける。主な著書に「フランス女」(マガジンハウス)、「世界一ぜいたくな子育て」(光文社新書)。2008年、スイスでハイエンド・フェアトレードのセレクトショップを起業。商品や情報の発信を通じ、サステナブルなショッピングスタイルを提案

創刊30周年OG特別寄稿
変化はこれから!
Sign of Change!

Photos: YUJI ONO

ジュエリーが輝きを増すとき

ブラッド・ダイヤモンドという言葉をご存知だろうか。別名コンフリクト・ダイヤモンド(紛争ダイヤモンド)とも呼ばれるこの用語は、この世でもっとも美しくもっとも贅沢な宝石「ダイヤモンド」の負の側面を表現する衝撃的な言葉であると同時に、同名の映画(※)がつけられるなど、ここ数年、静かに、けれど確実に市民権を得つつある概念だ。ダイヤモンド産業そのものが、アフリカ大陸などの市民戦争やジェノサイドの大きな資金源になっているという事実。あるいはまた、その発掘・精製・流通過程における労働搾取や環境汚染、不透明な資金の流れや犯罪組織とのつながりといった側面。例をあげればきりがないこうした不名誉な背景に、最初に声をあげたのは英国発のNGOだった。そしてそれに続く形で大小さまざまな組織や個人が、じわりじわりとアンチ・ブラッド・ダイヤモンドのムーブメントに賛同し、これを

支えはじめている。ことはダイヤモンドに限ったことではない。「クリーンゴールド」という同じく知名度の高まっている表現にもみてるように、それは華やかで夢のあるジュエリー産業全体にかかわる出来事であり、ゆえに世界中の個々の「女の一生」にかかわってくる出来事なのである。それぞれの「女の一生」が遠い国の平和とリンクする

ジュエリーと無縁の女の一生というのは稀だ。太古の昔より、さまざまな文明の中で女たちはジュエリーを身につけて、それを宝とし、祭祀や儀礼に用いてきた。まじないや魔よけの効果、幸福をもたらす威力、男性を惹きつけ、ときにかどわかす力。そうしたパワーを宿しながら、同時にまた、それは単に美しいものを愛するという、原始的な喜びを、古今東西の無数の女たちに与え続けてきた。けれど今、この古来綿々と続く「女の



フェアリーテールのジュエリーは、紛争フリーダイヤモンド、クリーンゴールドの認証を得たもの。パーソナルオーダーにも対応。写真のもの(手前)はイタリアの老舗が取り組むエシカルジュエリー「グロボ」シリーズから、イエローゴールドのダイヤモンドのペンダント(直径2.2cm)2,300スイスフラン。写真(後ろ)は、スイスでエシカルジュエリー賞を受賞した作品「アルブルドゥラヴィ」3,200スイスフラン ※1スイスフラン≒¥84(2010年3月現在) ●お問い合わせ「Fairy Tale Select」info@fairytalesselect.com http://www.fairytalesselect.com